

サイバー攻撃 手口を知ろう

会社のパソコンに届いた1通のメール。添付ファイルを開くと画面に「暗号化されました」。全てのファイルが開けなくなり「金を払えば復旧できる」との脅迫文が届

く。そんなサイバー攻撃の実態や防御策について考える「中小企業向けサイバーセキュリティ勉強会」が9日、津山市内で開かれる。

(小谷章浩)

中小企業向けセキュリティ勉強会 9日グリーンヒルズ

セキュリティ対策事業を手掛ける日笠商事(戸島)が主催。県警によると、こうした金銭を要求する「ランサム(身代金)ウェア」と呼ばれる手口を中心に、中小企業を狙った犯罪が全国で急増している。大企業に比べてシステム管理者の配置が難しい中小は、対応が後手になり標的にされやすいためだ。

県警捜査官ら講師

犯罪事例や対策紹介

勉強会では、県警生活環境課サイバー犯罪捜査指導官の児島裕章警部が最新のサイバー犯罪の事例を報告し、犯人の特徴や行動パターンについて紹介する。コンサルタントの船井総合研究所(大阪)でサイバーセキュリティチームのリーダーを務める那須慎二氏は、企業が講じるべき有効な対策について話す。

大田のグリーンヒルズ津山リージョンセンターで午後1時半～4時。無料。予約が必要。日笠商事のホームページから申込用紙を手に入れ、ファクス(0868-7878)する。問い合わせは同社(0868-88282)。

県警は県内での被害件数を把握していないものの、日笠商事には8月以降だけでも県内5社から被害の相談を受けて対策を講じており、「ガードが甘ければ、顧客データが漏れるなどの危険性を認識してほしい」(同社)と警鐘を鳴らす。